

令和7年度官民協働事業レビューにおける意見・評価

事業番号: 8月31日(日)③

担当部局・担当課名: 地方創生局デジタル化推進室

事業名	未来のDX人材育成事業	評価結果	現行どおり・拡充
-----	-------------	------	----------

事業レビューにおいて発言のあった主な意見

<p>【委員の意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・プログラミングから生成AIへと求められるスキルが急速に変化しているため、事業の幅を広げ、生成AIを使ったプロンプト学習などを取り入れるべき。・小学生へのAI・プログラミング教育においては、親の理解と協力(フォロー)が不可欠なため、保護者側にアプローチする内容も組み入れるべきではないか。・全14回のスクール(授業)が全て対面である必要はなく、オンラインの併用も考えられる。また、ハッカソンのように短時間で集中的な対面イベントを取り入れるなどの見直しも考えるべきではないか。・限られた参加者によるスクール(授業)よりも、科学オリンピックのようにもっと間口を広げて、未踏ジュニア(独創的なアイデア、卓越した技術を持つ17歳以下の小中高生や高専生などを支援するプログラム)につながる県内の競技会を実施する方が効果的ではないか。・学生や社会人のメンターを増やすことに加え、県内IT企業や大学と連携したインターンシップや講座を組み込み、出口戦略を強化すべきではないか。・高度なスキルを持ったデジタル人材を育てると、IT・DX人材不足という地方の課題に反し、かえって県外に流出するという懸念がないわけではない。・富山県の強みである医薬・バイオ分野の課題解決や人材戦略と結びつけることで、地元大学や企業への定着・貢献につなげ、県の施策として一貫性を持たせることも考えてはどうか。 <p>【県民評価者の意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・今は、優秀な人材が、県外に出たとしても、県外で就職して富山でリモートワークをするなど富山とつながりを持続けることができる時代であり、人材定着にこだわらず、スキルを学ぶこと自体が大切だと思う。・大学生になってから初めてプログラミングに触れると吸収が遅くなるため、小学生のときからの教育を充実させるべきだと感じた。

県民評価者の評価シートによる評価				県民評価者総数	19
評価区分	行政の関与 不要	役割分担 見直し	抜本的改善	一部改善	現行どおり ・拡充
	1	0	5	4	9 (現行4、拡充5)
県民評価者の 主なコメント	評価結果と 同じ評価	【現行どおり・拡充】 ・県外に出た高度なIT人材が将来富山に戻りたいと思う環境づくりが必要(ITを活かせる企業の育成、住みたいと思う環境づくり、補助金など)。 ・富山県版の奨学金制度や、県内企業や自治体に就職したらインセンティブ(住宅補助、奨学金返済免除など)を与える仕組みを設けてはどうか。 ・中高の授業にプログラミング教育があるのであれば、学校と連携して、通知表や内申のポイントとなるようなスクールを開催してはどうか。			
	上記以外	【抜本的改善】 ・現場が欲しい人材は即戦力なのではないか。この事業では人材育成の成果が出るのが10年以上先ということを考えると、課題解決策としてはマッチしないのではないかな。 ・育成した人材が都会へ出ていってしまわないことが大切であり、DX企業支援を併せて推進することも良いと考える。 ・夏休み限定コース(自由研究に焦点を当てるなど)を設けることや料金体系の見直し、ターゲットを増やす工夫などが必要ではないかな。 【一部改善】 ・広報の仕方をもっと工夫した方がよく、チラシに子どもが興味がありそうなものを載せるなど、子どもが惹かれるものにすべき。 ・プログラミングスクールで小さな頃に地域の課題に触れることは、将来富山に帰ってきたいという思いに繋がるのではないかなと思うので、地域に関わる機会は維持してほしい。 ・富山の企業を巻き込み、お子さんだけではなく、大人、親世代からAIプログラミングを学ぶ機会を作るべきではないかな。			

【参考】委員による評価				委員総数	4
評価区分	行政の関与 不要	役割分担 見直し	抜本的改善	一部改善	現行どおり ・拡充
	1	0	1	2	0

事業名	未来のDX人材育成事業	評価結果	現行どおり・拡充
-----	-------------	------	----------

【事業レビュー結果を受けた県の対応】

今後の 対応方針	一部改善	事業内容見直し			
	○プログラミングスクールについては、高校で情報Ⅰが必修化されたことやDXハイスクールの整備など教育環境が整いつつあることから、中学生に特化した内容に変更 ○プログラミング県大会については、既存の小学生向け大会について優秀者に中学生プログラミングスクール受講に繋げるインセンティブ付与（受講料免除等）。中高生を対象としたプログラミング県大会を新たに実施				
令和8年度 当初予算 要求時 の対応	R8当初予算 （要求額）	10,000（千円）	R7当初予算	10,000（千円）	増減額なし
	増減理由	－			

当初予算編成プロセスの見える化

令和8 年度 当初 予算	要求 状況	要求額	10,000(千円)	前年度予算額	10,000(千円)
		事業の目的	急速に進展するデジタル社会に対応するため、「突き抜けたDX人材」の育成と将来の県内定着促進を図るもの		
		事業内容	①小学生・中高生向けプログラミング県大会の開催 ②中学生向けプログラミングスクールの開催		
		積算内訳	①2,500千円、②7,500千円		
	予算編成過程における議論など		事業レビューにおける意見を踏まえ、プログラミングスクール及び県大会の内容の見直しを実施		
	最終的 な 予算 案	予算額	10,000千円	R⑦.2月補正	
		要求時点からの 変更点	変更なし		